

「とよた世間遺産」一覧表(平成28年度認定)

通番	種別	名称	所在地	推薦理由・物語
1	モノ	寿々家の鈴	足助町本町15	天保まで遡る旅籠「鈴屋」を源流に、足助の名料亭として名を馳せた「寿々家」には、披露宴等の宴席や様々な思い出を持つ地元住民も多い。その玄関横の軒先に、かつての屋号「鈴屋」に関連してか、鉄の鈴が下げられている。意味は不明であるが、往時をしのばせるものとして興味深い。関連する資料として、「御旅館 鈴屋」、「御料理」、「寿々家」の看板、鈴の絵が刻まれた石碑なども残されている。なお、昭和60年頃に廃業して以来、荒れていた建物は現在再生活用が図られている。
2	モノ	幸福稲荷	畝部西町屋敷51	幸福寺境内にあるため、「幸福」の字を冠したお稲荷さん。その名称からもご利益が得られそうで興味深い。
3	モノ	宇都宮三郎墓所	畝部西町屋敷51	宇都宮三郎は幕末から明治職に活躍したわが国初の化学技術者である。彼の先祖がこの地の出身であることから明治25年に自ら墓所を定め、先祖供養の盛大な祭礼を行い、明治35年に亡くなった後ここに葬られた。死体は、自ら設計した防腐装置付の棺桶に入れられ、「33年後に掘り返して見よ、きっとそのままの姿でいる。」と言い残したと言われている。ただし、いまだにその姿は確認されていない。近代日本の化学技術黎明期をけん引した人物の最後と、その物語をつなぐ場所として推薦される。なお、墓所の前にある石灯籠は、醸造関係の指導を受けて彼に恩義を感じていた半田亀崎の酒造家たちが設置している。また、宇都宮三郎に関連する資料として、幸福寺に伝えられた遺品類は、平成25年度に日本化学会の化学遺産に認定されている。
4	コト	とよた五平餅	市内	五平餅は、三河から信州にかけて通る中馬街道筋を中心に分布する郷土食で、豊田市の山間部がその発祥と言われている。五平餅を郷土食として大切にする活動をしている「とよた五平餅学会」もあり、その発祥と分布の物語は、山の文化を背負った食文化として後世に伝えたい。
5	モノ	前田公園	平戸橋町波岩	昭和4年(1929)に越戸村出身の前田栄次郎が計画・建設した観光用の公園。聖観音菩薩像へ続く100段余りの階段を主軸として、公園内には、先祖感謝の塔や寶槌台座、逆さ五重塔、各種記念碑など、珍妙な構造物や、コンクリート製の三十三観音がある。これらの構造物は、前田栄次郎の思想を反映しており、近代の私設公園の一形態として大変興味深い場所となっている。また、桜やモミジの季節には勘八峡の景色と併せて景勝地となっている。
6	コト	橋の下音楽祭	白浜町	2016年で開催5回となった豊田大橋下で行われる大衆芸術音楽祭。電力はソーラー発電等による自家発電、舞台装置等も手作り、入場無料の投げ銭形式で行われている。開催期間は全国からこの祭りを目指して人が集い、交流し、橋の下から強烈な熱気を発信している。
7	モノ	小馬寺の宝篋印塔	牛地町	生駒山の山頂付近の小馬寺境内にある宝篋印塔。後醍醐天皇の皇子・宗良親王の墓とも伝えられる。現在小馬寺は荒廃してしまっているが、かつては中馬街道を行き交う牛馬に関する信仰の対象でもあり、大規模な伽藍を構え栄えていた。苔むした宝篋印塔は、南朝方の宗良親王及び街道沿いに伝説を残す尹良親王の伝説等、昔日の姿を偲ばせる。
8	モノ	富永町のおびんずるさん	富永町	富永町が古くからおまつりしている仏像。かつては金の胎内仏があったとも伝えられている。一時小馬寺に預けていたが、小馬寺が荒れてきたころから再び集落にお迎えし、修理等も施して集落全体で大事にしている。
9	モノ	香嵐舎観光部の街路灯跡	足助町西町	表面に「香嵐舎観光部」の文字が見える街路灯の基礎部分。戦前には建てられていたと考えられ、足助が戦前から「観光」に対して意識を持っていたことを物語っている。

「とよた世間遺産」一覧表(平成28年度認定)

通番	種別	名称	所在地	推薦理由・物語
10	モノ	家下川の人造石樋門(葭池樋門)	鴛鴨町葭池	明治用水の用水路が家下川を跨ぐためにつくられたトンネル。明治33年に造られており、人造石工法によるトンネルとしては現存最大級の規模。自然河川の上を人工用水が通り、さらその上を東名高速道路が通るといふ、水の立体交差が見られる。
11	モノ	足助のからくり小屋	足助町本町	足助の町並みの中通り沿いに、近所の浦野さんが訪れる人を楽しませるためにつくったからくり。素朴で温かみのあるからくりで老若男女のくべなく見た人の笑みを誘っている。季節や干支ごとに展示の入れ替えもされている。
12	ヒト	からくり名人 浦野良美さん	足助町本町11-2	からくり小屋の作者。中通りを通る人たちに喜んでもらうためにからくりを自作している。
13	モノ	雷石	保見町北山 (射穂神社境内)	式内社・射穂神社境内にある石英の大きな岩の露頭。木漏れ日の中で雷が光るように見える。一種のパワースポットともされている。
14	ヒト	最後の足助芸者・後藤久子さん	足助町	かつては30名ほどの人数がいたと言われる足助芸者最後のおひとり。現在は香嵐溪踊り等の指導を行っている。
15	モノ	旧郡界橋	連谷町	大正6年(1917)竣工。鉄筋コンクリートアーチ橋としては東海地方最古と考えられる。橋の長さ約24m・幅4m。アーチから路盤までの井桁が和風の雰囲気醸し出している。
16	モノ	旧ウルシゼ橋	川手町	国道257号線沿いの名倉川に架かる、大正7年(1918)竣工の鉄筋コンクリートアーチ橋。橋の長さ28m・幅約3m。橋を支えるアーチのカーブはやや扁平で、2本のアーチ同士の幅が、橋の中央部から端部にかけて開く複雑かつ優美な姿を見せている。
17	モノ	旧真弓橋	御所貝津町	大正8年(1919)竣工の鉄筋コンクリートアーチ橋。長さ20m・幅1.7m。
18	モノ	前橋	大野瀬町	大正8年(1919)竣工の鉄筋コンクリートアーチ橋。長さ16m・幅3.5m。深い弧を描くアーチに対して全体に小さな姿が印象的な橋。
19	モノ	旧稲武大橋	稲武町、武節町	大正15年(1926)竣工の鉄骨アーチ橋。細い部材を組み合わせ角張ったアーチが特徴的。
20	モノ	初代清市の法被	榭塚西町	野田味噌商店初代が着用していた法被。創業者の心を大事にしている。
21	モノ	赤い麒麟	榭塚西町	昭和20年代から蔵内で使用されていたガソリン給油機。手動ハンドルによるポンプくみ上げ式で、表示はガロン。進駐軍の払い下げ品と考えられ、旧海軍岡崎航空隊第三飛行場があった場所としての物語も伝えている。現在は夜間照明として活用されている。
22	コト	木桶再生	榭塚西町	約110年前に使用されていた味噌桶を分解し、約100kg分の小さな桶に再生して味噌作りをしている。今後も再生活動を進め、体験等の味噌桶として活用していきたい。
23	コト	水無瀬川緑道の桜並木	四郷町天道	3百本近い桜が植樹されており、桜の季節の景色は壮観である。地元の方々により周辺も整備され、現在も桜の植樹等の整備が続けられている。
24	モノ	灰宝神社の二宮金次郎像	越戸町松葉52	身の丈2.2mもあり、国内最大級の二宮金次郎石像と考えられる。地元出身の実業家・前田栄次郎氏の寄贈と推定される。2本の足と1本の石柱で巨体を支えており、そのバランスの妙が素晴らしい。
25	コト	巴川穂積橋付近・河川敷の風景	則定町	地区の人の植樹、管理によって美しく保たれている川岸の風景。周辺には烏帽子岩や金精大明神など地域の名所も所在する。

「とよた世間遺産」一覧表(平成28年度認定)

通番	種別	名称	所在地	推薦理由・物語
26	モノ	鐘突き堂・長屋門・蔵	和会町上屋敷	古き良きもののコレクター石川氏が移築した建物群。個人の趣味で古き良き建物を残していくということは貴重。
27	ヒト	古き良きもののコレクター・石川 昭さん	永覚町上長根	古き良きもののコレクター。道楽と言えば道楽ながら、古くても良いものを残していくという行為を続けている。
28	コト	石川氏クラシックカーコレクション	永覚町上長根	1928年式のフォード車等、数十台のクラシックカーやバイクを展示・公開している。
29	コト	隠れ里のパワースポット	富永町	人里離れた断崖絶壁にまつられた神社と不動明王など。生命力を感じるパワースポット。山里暮らしの生活の中で個人の信仰心が形になったところが興味深い。
30	コト	ライブカフェ「足助のかじやさん」	足助町	廣瀬明史さん(故人)が始めたライブカフェ。町並みや人、家族など身近な題材を足助の歌にしていた廣瀬さんの人柄が表れた場となっている。現在は鍛冶屋とライブカフェを息子さんが継ぎ、先代の雰囲気を残しつつ新たな交流の場となっている。

応募39候補のうち保留9＝第1回認定30遺産
保留の9候補については、次回継続協議とします。